



第150回同志社大学全学EVE実行委員会

同志社大学 学生支援センター／地域連携推進室・ボランティア支援室

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103

TEL:075-251-3270 FAX:075-251-3099

<https://student-support.doshisha.ac.jp/s-support/>



はじめに INTRODUCTION

同志社EVEとは？

同志社EVE(以下、EVE)は、11月29日の同志社創立記念日を祝う行事として「学生の自主管理・自主運営」と「学生団体の発露の場」という活動理念のもとに開催されており、11月1日から創立記念日前日の11月28日までの期間に同志社大学生の手によって創り上げられる記念行事の総称です。特に、11月26日から28日のEVE本番期間である3日間は学生団体によるステージ出演やテント・教室出店などがあり、同志社生や地域住民の皆様など、キャンパス内が老若男女問わず多くの方で賑わいます。



2025年度のテーマ 「さあ150しよう」

創立150周年の記念行事にふさわしいテーマとなるよう、大学と学生、地域など、EVEに関わる全ての人の新たな挑戦や出会いを後押しするような言葉の意味合いを持たせました。このテーマのもとに、日々の活動の中でたくさんの方の挑戦をしてきました。



第150回 同志社大学全学EVE実行委員会について

EVEの運営を安全そして円滑に行うための団体です。「第150回 同志社大学全学EVE実行委員会(以下、EVE実)」は2025年度の5月に発足し、幹部9名(委員長・副委員長・各局長)と補佐74名の計83名の同志社大学生で構成されました。事務局、財務局、渉外局、広報局、ステージ局、企画局、総務局の7部署に分かれて、毎週土曜日の定例会議を基本とした日々の活動に取り組んできました。



渉外局について

渉外局は2024年度に新設され、2025年度で2年目の新しい局です。局長1名と補佐10名の計11名で日々の活動に取り組みました。近年のEVEはすべての取り組みが学生のみで完結しており、地域に開かれた行事とは程遠いものでした。こうした課題を踏まえた2024年度には、EVEがこの上京区という地域に根差した行事になるよう、EVEそのものを改革した経緯があります。その過程で、地域連携に特化した渉外局が新設されました。2024年度は手探りながらも、地域のお祭りや小学校でのボランティア、地域の人々が集まる定例の交流会などを通じてゼロから関係を構築しました。2025年度は、前年に構築した関係性に加え、新たな地域の方々との協働にも挑戦し、活動基盤の強化に努めてきました。

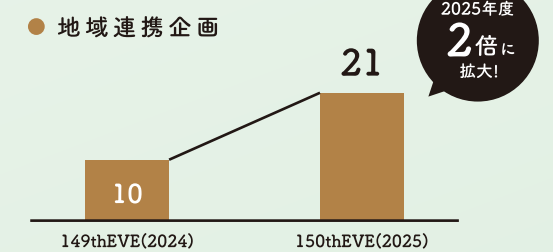
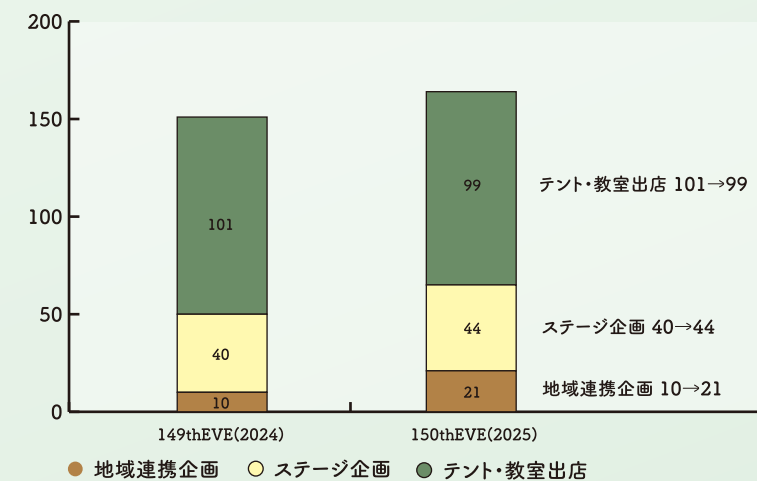


データで見るEVEについて

渉外局が設立され2年目を迎えたEVEは、学生だけでなく地域の多くの方で賑わいを見せました。そんなEVEの地域連携企画について、データをもとにご紹介いたします。

地域連携企画の拡大!!

2024年度の地域連携企画が大好評であったことを受け、2025年度はさらに規模を拡大して実施しました。参加団体数は2024年度の10団体から21団体へと倍増しており、EVE全体の企画数に占める地域連携企画の割合も年々高まっています。地域とのつながりは、EVEの大きな特色として定着しつつあります。



● 地域連携企画
○ 近隣飲食店出店
2024年度4店舗から、7店舗に拡大!

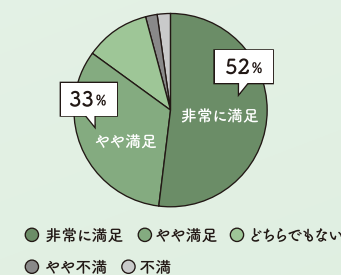
○ 伝統工芸ワークショップ
2024年度3事業者から、10事業者に拡大!

参加者のアンケート回答

EVEの来場者に対してアンケート調査を実施し、以下の結果を得られました。

来場者満足度調査 総合 4.32/5(※1)

来場者アンケートでは、85%の方がEVE全体に対して「非常に満足」または「やや満足」と回答いただきました。3日間を通して多くの方にEVEを楽しんでいただける結果となりました。

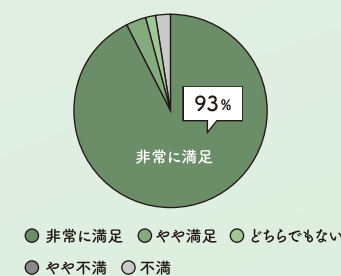


来場者の声

「盛り上がっていてよかった」「全体的にステージパフォーマンスが楽しかった」「賑やかな雰囲気が感じられてよかった」「出演者の方はもちろん音響などもクオリティが高くすごいと思いました」

伝統工芸ワークショップ 参加者満足度 4.84/5(※2)

ワークショップ参加者のうち93%の方々に「非常に満足」と回答いただきました。「職人さんが丁寧に教えてくれ、素敵な作品が仕上がった」との声で溢れる企画となりました。

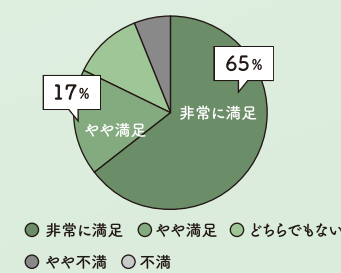


来場者の声

「丁寧に教えてもらえた」「素敵な作品になった」「素敵な作品ができて大満足です。初めての体験なのも嬉しかったです!」「大満足です。本職の方に指導していただけるなんて有り難く楽しい時間でした」

事業者様の満足度 4.41/5(※3)

近隣飲食店と伝統工芸ワークショップに運営として携わった事業者様の多くも、EVEに高い満足度を示されており、「多くの来場者に喜んでもらえて良かった」「多世代と交流出来て良かった」といった声を多数いただきました。事業者様には準備段階から多大なるご協力をいただき、共にEVEを創り上げることができました。

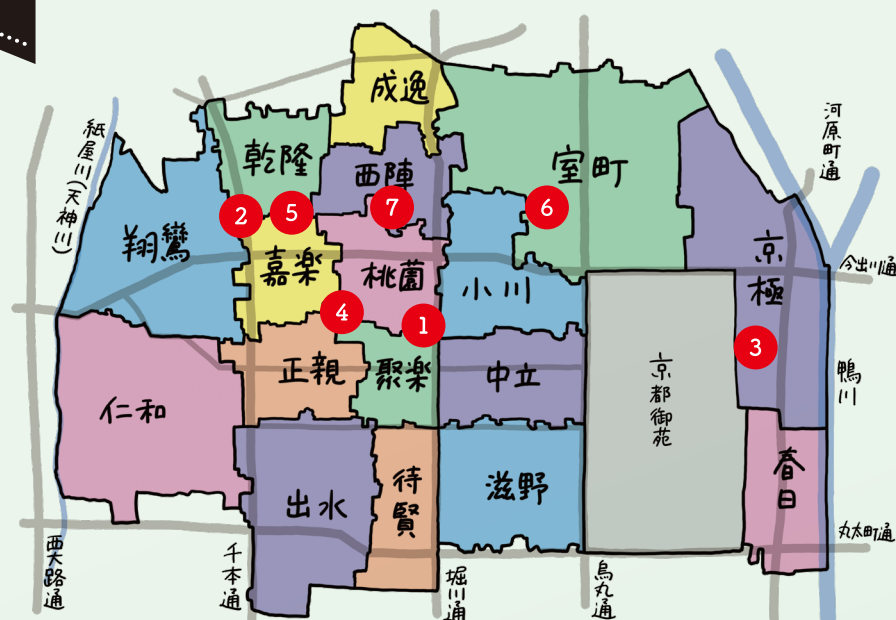


来場者の声

「たくさんのお客様に来ていただきました(近隣事業者)」「たくさんの方に参加して頂け、伝統工芸についてのお話も聞いて貰えた(伝統工芸事業者)」「スタッフの方々のやる気が伝わってきました(伝統工芸事業者)」

(※1)「来場者様アンケート」回答者(103名)の集計結果 (※2)「伝統工芸ワークショップ事後アンケート」回答者(122名)の集計結果 (※3)「参加事業者満足度調査」回答者(全17団体)への集計結果

上京区17元学区



1 上京朝カフェ

7月から11月の定例参加

概要

上京朝カフェは地域交流の場として毎月開催されており、様々なイベントの告知やボランティアの募集が行われています。毎月の上京朝カフェに参加するなかで、EVEの告知を行うとともに、地域の方々と交流することができ、2025年度のEVEや各種ボランティア活動について情報を共有する機会となりました。

EVE実員の声

上京朝カフェに参加したことで、普段の学生生活では関わることのない地域の方々と交流することができました。また、上京区では想像以上に多くのイベントが開催されていることを知り、地域活動の活発さに驚きました。さらに、朝カフェを通して新たに知り合った方と、EVE本番期間に向けたコラが商品を開発しました。地域の方々と直接関わることで、様々な情報を知ることができ、地域への理解を深める貴重な機会となったうえ、地域の方々とつながりも強く実感しました。



2 西陣Fes夏祭り

8/9

概要

西陣Fes夏祭りは、幅広い世代が地域産業に興味を持つきっかけを創出することを目的に、毎年コミュニティ・バンク京信西陣支店前広場で開催されているイベントです。今回の西陣Fes夏祭りでは、緑日、狂言の上演、伝統文化体験が行われ、多くの来場者で賑わいました。

EVE実員の声

西陣Fes夏祭りでは、体験やマルシェブースの運営ボランティアを通じて、地域の方々と交流の機会を持ちました。上京区の企業によるワークショップを中心に、多くの来場者様に好評で、楽しんでいたイベントとなりました。EVE本番の伝統工芸ワークショップや近隣飲食店の出店に向け、多くの事業者さんと交流ができました。

3 京極小学校との交流

京極小学校とは2024年度に「放課後まなび教室」での交流の機会を得た縁もあり、2025年度は小学5年生の児童を対象にEVE実員が授業を実施しました。

➡ 詳細は6ページにて記載しています。

4 千両ヶ辻ボランティア

9/23



概要

「千両ヶ辻」は、今出川大宮周辺で毎年開催されている、歴史ある町家を巡りながら西陣の歴史と和 문화の体験ができる祭典です。渉外局としては、2024年度に引き続き、運営補助ボランティアとして参加しました。

EVE実員の声

私たちは「千両ヶ辻」のイベントボランティアとして、早朝より会場設営と運営補助に携わりました。主な業務は、広範囲にわたる案内広告の掲示と、メイン企画である「着物でそぞろ歩き」の先導・誘導です。イベントの成功を支える不可欠な役割であることを意識し、責任感を持って取り組みました。活動中は、地域の方々と直接対話する機会に恵まれました。地域のお子様との交流など、温かいコミュニケーションに支えられた上、多くの方々にEVEを知ってもらおう大変貴重な機会となりました。

5 嘉楽わっしょ

11/2



概要

嘉楽わっしょは、毎年秋に嘉楽中学校で開催される学区祭です。地域とのつながりを強める取り組みの一環としてEVE実も出店側として参加しました。当日は出店のほかにも、小学生や保護者、地域住民の方に対して渉外局員が会場内を回りEVEのパンフレットを配布しました。配布時には、渉外局の活動内容やEVEの開催概要について口頭で説明を行い、認知向上につながるよう広報活動も行いました。

EVE実員の声

パンフレット配布を通して、EVEの開催について十分に認知されていない地域の方が多いことがわかりました。そんな中、来場した小学生や保護者、地域住民に対して直接説明を行うなど実際にコミュニケーションをとることで、EVEの認知度向上、来場促進につながる貴重な機会になったと思います。この活動は、渉外局だけでなくEVE実にとって重要な取り組みであったと感じました。

6 室町学区との交流

8/30 盆踊り大会

11/2 室町ふれあいまつり

12/14 餅つき大会

概要

室町学区の会長とのつながりのもと、計3回のイベントに運営補助として参加しました。会場には子どもや保護者、地域の方々が多数来場し、テント出店や催しが実施されていました。渉外局では準備や片付け、会場整理などを担当し、行事が円滑に進行するよう支援することができました。また、地域の方々と連携しながら、運営の協力を行いました。

EVE実員の声

今回の活動を通して、地域の方々の手助けをしながら、一つの行事の運営に関わることができました。地域の方が私たち学生に気さくに話しかけてくださったことで、距離も縮まったように感じます。また、子どもたちが楽しそうに盆踊りを踊ったり、笑顔で話しかけてくれたりする姿から、この祭りが地域にとって大切な交流の場であることを実感しました。私たち自身も祭りの雰囲気を楽しみ、地域の一員として関わるなかで、室町学区とEVEの関係性が強まる、とても貴重な機会になったと思います。

7 西陣学区との交流

11/23 防災イベントの主催 ➡ 詳細は5ページ

12/7 餅つき大会

概要

2025年度、新たに学区会長とのつながりを持ち、元西陣小学校を拠点にボランティアや校庭を用いたイベント開催をさせていただきました。ボランティアは主に、「PLAY!もとにし」という西陣学区の小学生を対象とした月一度のグラウンド開放イベントで、子どもたちと交流をしました。また、餅つき大会の補助を通して、2025年度大変お世話になった西陣学区の方々にも恩返しをできたと思います。

EVE実員の声

餅つき大会では、地域の方々に餅の丸め方や上手なつき方を教えてもらいながら、一緒に楽しむことができました。作業をしながら自然に会話が生まれ、普段はなかなか関わることのない地域の方々と交流できたことがとても嬉しかったです。こうした体験を通して、地域行事が人と人をつなぐ大切な場であることを実感しました。また、餅つき大会の補助を通して、2025年度に大変お世話になった西陣学区の方々にも恩返しをできたと思います。

小学生にアプローチした活動

2024年度、多世代来場を目標とし、地域に開かれたEVEの開催を目指して地域にアプローチをしたものの、EVE本番では子どもや保護者世代の来場が少ない事実がありました。2025年度は上記の課題を踏まえて、小学生とその保護者世代にEVEを認知し、当日来場してもらうことを目標にアプローチの強化を図りました。代表的な活動実績として、渉外局が防災イベントを主催したこと、小学5年生を対象に授業を実施したことの2点があります。

PICK UP!

EVE実×「PLAY!もとにし」×「ログス」イベント

➡『あそぶまなぶまもる 防災アドベンチャー』



概要

渉外局がゼロから防災イベントを考案し、「PLAY!もとにし(西陣地域住民福祉協議会)」と「株式会社 ログスコーポレーション」に協働を依頼し、開催が実現しました。当日は4時間で、のべ120名の小学生や保護者さんに来場していただき、交流を行うことができました。交流を通してEVEについても認知してもらうことができ、EVE本番に来場してくださった方々も多数見受けられました。

活動内容



Enjoy Outing!「エンジョイ・アウトイング」を合言葉に、LOGOSはアウトドアの楽しさを広げる日本のブランドです。1985年の誕生以来、様々なスタイルでアウトドアを楽しむ提案を続けています。



西陣地域住民福祉協議会が進める、元西陣小学校の活用実験です。月に一回開催され、閉校後の校舎を地域の交流・自治の拠点とし、子どもの成長を地域全体で支えるまちづくりを目指しています。地域で子どもを育て、子どもが育つまちづくりを目指す活動です。

EVE実員の声

「PLAY!もとにし」が有する地域ネットワークを活用して防災をテーマとしたイベントを立案し、渉外局員が中心となって企画運営を行いました。当日は、段ボールやペットボトルを用いた防災グッズの製作体験、ログス製品のヘッドライトを使った宝探し、テントや寝袋の体験などを実施しました。これらの企画をスタンプラリー形式で行うことで、小学生が複数の体験を楽しみながら参加できるように工夫しました。来場した小学生にはEVE本番期間中に使用できるチケットを配布し、併せて保護者に対してEVEの開催について説明を行い、本番期間中の来場促進も図りました。イベントの共催を通して、西陣学区やログスコーポレーションとも、今後につながる強い関係性を構築できたと思います。

株式会社ログスコーポレーションの声

EVE実の皆様を中心に、地域も連携した有意義な防災イベントを実施いただきました。当日は多くの地元の小学生、保護者にもお越しいただけたとのこと、大変嬉しく思います。アウトドアを通じて日常と災害時をつなぐ備えの大切さを学んでいただき、大変貴重な機会を作っていただきありがとうございました。今後も産官学の連携を通じて様々な取り組みをできることを楽しみにしております。

PLAY!もとにしの声

数日後に実施されるEVE本番の宵宮のように開かれた防災アドベンチャーは、子どもたちのために練られた企画と実行委員会が築いてきた関係各所への広い広報などもあり、大盛況に終わりました。防災アドベンチャーを通じて出会った子どもたちとEVE本番に再会したという声もお聞きました。EVEを実施する中で、準備の過程で出会ってきた人々もきちんと覚えていることは素晴らしいことだと思います。

PICK UP!

➡ 京極小学校での授業実施



概要

小学生へのアプローチの一環として、2024年度より交流のある京極小学校にて、EVE実主体のグループワークを実施しました。小学生の討論不足が課題であるなか、小学5年生を対象に総合探究の授業2コマをいただき、EVE実の知見を活かした討論型授業を行いました。地域の小学生との交流という観点において、渉外局としても新たな地域連携活動を展開することができました。

当日の実施内容

「来年のEVEで実現できそうな企画を一緒に考えよう」をテーマに、EVEやEVE実の活動紹介から企画構築までのプロセスを段階的に解説しました。

グループワークでは、EVE実員がファシリテーターとなり、小学生たちの「好きなこと」を起点としたアイデア出しをサポートしました。配布した企画用フォーマットを用いて、具体的な企画案としてアウトプットを行い、グループごとに企画を発表しました。小学生視点の自由な発想に基づく企画が提案され、最後には感想シートを通して自身の学びを振り返る時間を設けました。

EVE実員の声

京極小学校で授業を実施するにあたり、「小学生に特化した新しい形の地域連携」と「小学生の討論機会の創出」を目標に、自分たちの手で一から内容の構成を考えました。構成するなかで、時間配分やテーマの難易度に対して不安もありましたが、結果としてお互いにとって非常に実りのある時間を創出できたと思います。

実際のグループワークでは、小学生が自身の“好きなこと”を起点に自由な発想を広げ、大学生である私たちでは思いつかないような独創的な企画案が多数生まれました。“双方向での対話”を意識したことにより、当初の目的でもあった「小学生の主体的な議論」をうまく引き出せたと思います。授業での交流を通して、小学生のみんなにEVEを深く知ってもらえた他に、小学生と大学生の交流の創出といった、両者にとって大変意義のある活動であったと感じています。今後は企画の立案にとどまらず、EVE実員と小学生と一緒に企画を作っていく取り組みができたら素敵だと感じています。

先生の声

EVE実の皆さんが、京極小学校の5年生とともに「来年のEVEの企画を作る」という取り組みをしてくださいました。はじめは緊張していた5年生でしたが、好きなものを質問し合ったり、アイデアを交流したりするうちに大学生の皆さんとどんどん打ち解け、活動後には「楽しかった!」「同志社大学に行ってみたい」という声が多く聞かれました。

児童の声

「想像力がきたえられた。みんなの企画もテレビ番組みたいで凝って面白かった。ちゃんとみんなの好きなものを取り入れてよかった。」
「やりたいことを実現できるのが楽しい。」「はじめて大学生と話して、とても楽しかったです!」
「同志社校内におにごっこ爆走中をやってみたいです。色々な案が出ておもしろかった。」
「今度行われるEVEに行ってみたいと思いました。」

活動の成果

2024年度の課題を踏まえて上記の活動に取り組んだことで、地域の小学生たちにEVEを認知してもらうことができました。EVE本番では、イベントで配布した来場特典チケットを持参してくれたり、授業で交流した小学生をみかけたりしました。その際に、自分たちが半年間かけて取り組んできた活動の成果を強く感じることができました。これらの活動が来年度以降も拡大し、EVEと子どもたちがより深い関係に発展できればと願うばかりです。(渉外局長より)

地域社会とのつながり×150th同志社 EVE

EVE本番期間に向け、渉外局では近隣飲食店舗および伝統工芸ワークショップの誘致を行いました。地域とのつながりをより深めることを目的に取り組んだ結果、本番期間中はいづれの企画も多くの来場者で賑わいました。

事業者様からのコメント

パパジョンズ 様



カフェの中では味わえない活気とEVEの臨場感を学生さんたちと共有しながら、こちらも楽しませていただきました。予想を上回る売り行きでしたので、来年またお声をかけただけなら、もっとたくさんのケーキを準備しようと思っております。ありがとうございます！

ぱんだの散歩 様



初めて入ったキャンパス内のとても良い雰囲気が印象的です。イベントの時間を共有できたことに心より感謝いたします。たくさんの可能性を持った学生さんたちの今後の活躍を期待しています。これからも地域と共に京都の活性化をさらに目指して下さい。

つぼ焼きいも 紅幸 様



学生さんたちのエネルギーに圧倒されながらも、終始とても楽しく充実した一日を過ごせました。たくさんの方と直接お話しをして、商品を手にとっていただけて、とても嬉しかったです。またぜひ機会があれば参加させていただきたいです！ありがとうございます！

近隣飲食店誘致

EVEの地域連携活動における象徴的な取り組みとして、上京区の店舗事業者を対象に出店協力を依頼しました。地域に開かれたEVEであることを広く発信し、EVEと地域とのつながりを来場者・事業者双方が実感できる企画と位置付けています。

京かまぼこ 大栄 様



初めての参加ということもあり、不安もありましたが、実行委員会の皆さんのおかげで、滞りなく、一日を過ごすことが出来ました。また、学生さんたちとの交流はとても楽しい時間でした。

紫竹庵 様



初参加でしたが、準備など問題なくできました。実行委員の皆様も準備の段階から親切でした。外部の方もチラシをみてご来店されている方が多く、お店を知ってもらう機会にもなりました。

crème×plus 様



外部からの来場者も多く、とても活気のあるイベントだと感じました。ステージも近く、出店しながら楽しませていただきました。運営が学生さんなので直前にバタバタすることもありましたが、結果的に楽しく出店することができて良かったです。ありがとうございました。

CORNER MIX

コラボ商品について

「上京朝カフェ」に参加し地域の方との交流を大切にしていく中で、「CORNER MIX」とコラボ商品を開発し本番期間に販売を行いました。EVE本番期間中は気温が低いことから、オリジナル品として「ほうじ茶チャイラテ」を開発しました。同志社カラーである紫を取り入れ、EVEのロゴマークがついたステッカーを飲み物の容器に貼付することで視覚的にもEVEと近隣飲食店舗のコラボ商品と認識できるよう工夫を凝らしました。多くの方々に購入いただき、EVEで地域との連携が目に見えた形となって体现することができました。



伝統工芸ワークショップ

京都市内には西陣織をはじめとした伝統工芸品がいくつも存在する一方で、学生が日常的に触れる機会は減多にありません。学生が多く集まるEVEで職人さんたちを招き、京都の伝統工芸品に触れて学べる機会を創出しました。

職人さんたちからのコメント

Nao 漆工房 様



京都の伝統工芸に学生、一般の方々に触れ合えて、実際の感想も聞けました。なかなかこのような体験が出来るという事に感動して頂き嬉しく思います。地域の皆様そして学生の皆様の興味の度合いが伺える良い機会を与えて下さり、ありがとうございました。

ネーカーズ 様



地域の皆様と直接ふれあい、革の魅力をお伝えできる貴重な機会となりました。参加者の方々から「革って温かいですね」「自分で作ると愛着が湧きます」といったお声をいただき、ものづくりの喜びを共有できたことを大変嬉しく思います。

京こま 雀休 様



日頃、お子様連れや観光客に対するワークショップが多かったのですが、今回のEVEでは学生さんや地域の皆様といったいつもとは異なる層の集客があり行った甲斐がありました。幅広い世代の方々に楽しんで頂けて良かったです。

工房 武久 様



学生さんが、地域貢献をして一生懸命取り組んでいる姿は感銘しました。工芸品の作り手として、普段若い人を中心に多くの方に見てもらえる機会が少なく、いい機会を頂きました。今後、EVEのさらなる飛躍と、作り手とで更に素晴らしい企画になる事を祈念しています。

昇苑くみひも 様



今回初めて参加させていただきましたが、広く地域に開かれたイベントだと感じました。地域の方や父兄の方も多数参加されており、皆様とても楽しそうにしておられました。良い取り組みだと思いますので今後継続していつてもらえると嬉しいです。

太田畳店 様



とてもたくさんの方に体験して頂き、用意した材料が全て無くなって嬉しかったです。今回の体験で学生さんのような若い方や地元の方や日本国外の方に畳に興味を持って頂ける方が増えたなら何よりです。また機会があれば宜しくお願い致します。

水引元結 源田 様



幅広い年齢層の方に、体験していただけたことがとても嬉しかったです。ワークショップによって、水引や他の伝統工芸も身近に感じていただけたのではないかなと思いました。またぜひ機会があれば参加させていただきたいと思います。

中村織物店 様



西陣織のワークショップとして初めて参加させて頂きました。織体験、糸巻き体験共に体験して下さった方から「貴重な体験が出来て良かった」など、好意的な感想をお聞きして、私も伝統産業に携わる者として励みになりました。ありがとうございました。

富坂綜統店 様



準備段階から、スタッフさん達のやる気がひしひしと伝わり、出展者としてもより一層、過去、現在、未来の伝統産業を伝えなければならないと感じました。

soin 様



幅広い世代の方にご参加いただきました。初めて手描友禅の仕事に触れる方が多く、楽しそうに取り組まれる姿や素直な反応がとても印象的でした。直接言葉を交わしながら制作を進めることで、ものづくりの魅力や奥深さを改めて実感できる、学びの多い貴重な機会となりました。

EVE当日の成果

上京朝カフェin同志社EVE(11/26)

2024年度に引き続き、11月の上京朝カフェがEVEにやってきました。良心館ラウンジで行われた上京朝カフェでは約50名の地域住民と大学生が集まり、自己紹介や地域活動を伝え合いました。ボランティアサークルやゼミに所属する学生もたくさん集まり、10代から70代までの多世代交流ができました。

上京朝カフェ運営チームより

同志社創立150周年という記念すべき年のEVEに、地域連携の一環として上京朝カフェを開催できたことを感謝申し上げます。EVE実の皆さんと広報や会場レイアウトなどの準備を一緒にする中で、学生にも、地域の方々にも楽しんでもらえる工夫ができ、話に花が咲きました。同志社大学で地域活動を行う学生さんとのつながりも広がってきました。また来年もEVEで開催できたら嬉しいです。



TOPIC

メディア出演について

2024年度からの地域連携活動を各方面で評価していただく機会が多くなりました。2025年度は、テレビ・新聞・ラジオ・複数の広報誌と多くの取材を受け、京都市の皆様にもEVEの活動を周知することができました。

EVE本番期間のコンテンツをたくさん紹介させていただき、魅力を存分に発信することができました。テレビや新聞、ラジオを通してEVEを認知し、来場したという地域の方々も多数見受けられ、メディアの力を実感しました。また、渉外局の理念や活動内容も多数特集していただき、市内に在住している多くの方々にEVEを発信することができました。

テレビ出演

「京暮士門(KBS京都)」
11/21放送回



ラジオ出演

「ONE FINE DAY(FM京都)」
11/12放送回



掲載情報

京都新聞
(11月21日 朝刊)



終わりに



(左から、副委員長、委員長、渉外局長)

平素より、EVEの開催に際し多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。私たち同志社EVE実行委員会は、学生主体で運営される行事であると同時に、地域の皆様の温かいご支援があつてこそ成り立っています。準備段階から当日に至るまで、多くのお力添えや励ましのお言葉をいただき、EVE実一同、深く感謝しております。EVEを通じて、学生と地域がつながり、互いに活気を生み出す場となっていましたら幸いです。今後も地域に愛され、地域と共に歩み続けるEVEを目指してまいります。引き続き、何卒よろしくお願い申し上げます。

第150回同志社大学全学EVE実行委員会 一同

ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました！

